

## 後期研修（血液内科）

### 研修責任者

経田克則 （日本血液学会指導医）

島樋 茂 （日本血液学会専門医）

### 研修内容

- 1．到達目標：血液疾患患者を入院から退院まで通して診療することで、診断・検査・インフォームドコンセント（コミュニケーションスキル）・治療法を身につけます。日本血液学会専門医を目標とします。
- 2．経験すべき症例および症例数：白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性疾患を20例～ / 年。その他に再生不良性貧血や特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患も経験します。症例を通して好中球減少患者や免疫不全患者の全身管理、癌化学療法や感染症治療を習得することができます。
- 3．プログラム：研修医の希望に応じてカスタマイズされます。朝から深夜まで濃厚な研修を希望される方から、am9時-pm5時を希望される方まで、体育会系から文化部系の方まで幅広く歓迎します。毎週月曜日に血液内科カンファレンスを、火曜日に看護師、薬剤師とのケースカンファレンスを行います。内科合同カンファレンス（毎週月曜日）に参加し内科医としての基本も学びます。年に1回、日本血液学会総会または日本造血細胞移植学会総会のいずれかに参加します。

日本内科学会認定内科医資格を取得した後に日本血液学会専門医資格の取得を目指します。当院は日本血液学会認定研修施設です。血液学の研修を3年以上受けると日本血液学会専門医認定試験を受験することが可能となりますが、さらに大学でのリサーチ、学位取得を希望する場合は金沢大学医学部附属病院血液内科へ転出することも可能です。

## 血液内科（日本血液学会認定研修施設）

白血病、悪性リンパ腫および多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍のほか、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などが診療の対象となります。週に1度、内科各分野の専門医と合同カンファレンスを行っています。また、血液内科病棟(1病棟7階)の看護スタッフとも定期的に学習会を開いてチーム医療の向上に努めています。

造血器悪性腫瘍の闘病生活はその後の人生に大きく影響を与えることが多いため、ご本人へ積極的に病名を告知し、十分なインフォームドコンセントに基づいて治療方針を決定しています。

急性白血病に対しては日本成人白血病研究グループ(JALSG)に参加し、共通プロトコールによる治療を行っています。悪性リンパ腫に対しては標準治療である CHOP 療法を第一選択とし、B 細胞リンパ腫であればリツキサンを加えて治療を行っています。適応があれば若年者を対象に自家末梢血幹細胞移植も行っています。多発性骨髄腫に対しては入院のうえ多剤併用化学療法を行っています。高齢者へは MP 療法による外来治療が中心です。治療抵抗性の多発性骨髄腫に対してはボルテゾミブやサリドマイドを使用しています。

また造血幹細胞移植も適応があれば積極的に行っており、高齢者を対象としたミニ移植も開始しました。